

高砂百合

何年前からだろう門扉の傍に咲く
どこから吹かれてきたか
白い百合の花

歩く姿まるで百合の花と
女性を褒める言葉に使われる

それほど綺麗な花をつけるのに
なぜか雑草と言われてる

夏の終わりに咲いて散る
束の間の喜びとは裏腹なことに
ほんの少しだけの間に
愛でられて終わる儚さが
なんとも拭えない

毎年見ていたのにある年を境に
ひとつも生えなくなる
白い百合の花

花がさくその間たくさんの
タネを風に乗せて飛ばしてく

そこにいなくなっても別の場所に
旅する花と言われてる

夏の終わりに咲いて散る
束の間の喜びとは裏腹なことに
ほんの少しだけの間に
愛でられて終わる儚さが
なんとも拭えない

古い腕時計が出てきた

今はもう動かない腕時計

整理して出てきた最初の腕時計
学生時代の頃にしていて

これを買ってもらったのは中三の3月
担任の先生の下宿に集まり
離れ離れになる友達多勢
初めて夜を明かした
時計の日付が変わる瞬間
感動してみた

徹夜したことはそれが初めて

縛った古新聞たくさん積まれた
若い先生の部屋何もなかった

僕ら以外に誰もいなかったその下宿で
先生がギターの弾き語りしてくれた
そのあと近くのラーメン屋
狭いカウンター 一列に
何人いただろう座れなくて
道路で食べるやつもいた

今はもう動かない思い出のもの

空の巣見つめる日々

いつかはやってくると
思ってた巣立ちの後
何もなくなった後の
空の巣見つめる日々
成長し喜ぶよりも
生き甲斐無くしたようになる

少し前まで小さかったけれど
思ってたよりもずっと早かった

胸に空いた大きな穴を
埋めるだけのものがなくて

これからまた別のこと
始めようと思うけど
何もやる気が出ない
空の巣見つめる日々
成長し喜ぶよりも
この先何をしたらいいのか

少し前までそばにいたけれど
一緒にいたのがウソのように

ふとした時に込み上げてくる
強い孤独 拭うものがなくて

胸に空いた大きな穴を
埋めるだけのものがなくて

夕方の虹 夜の花火

夕方になっても青い空を
覆い隠すような厚い雲のむれ

その中で白く明るい雲の
下にわずかに一筋の虹が

ハイキングして疲れた体
明るいうちからシャワー浴びて

ふとツツカケで外に出た時
さらに気持ちよくなる見上げた空に

雲の晴れ間めがけ綺麗に
暗い灰色の雲突き刺すように

夜になっても黒い空を
覆い隠すような厚い雲のむれ

その中で集まった人たちとの花火
打ち上げた火の粉が噴水のように

今宵は近所で納涼祭り
ほとんど知らない人たちだけれど

持ち寄る料理やおでんの出店
たこ焼き焼きそば焼き鳥に酒

夜の空にめがけ綺麗に
さっきの一筋の虹のように

雲の晴れ間めがけ綺麗に
暗い灰色の雲突き刺すように

ほんの少しでも

何日すぎただろう昼も夜も
浅い眠りで病に伏している

健康な時は眠る幸せ
感じていたのにいざこうなると

天井の模様を覚えてしまうほど
しばらく同じ姿勢が続いてる

ふと寝入った時に元気な体で
陽のさす野原寝転んでた
なんとなく気がついて
夢だと分かった後も
目を開けないほんの少しでも

隔離された体 ふすまのそばに
置いてある食事 ビスケットと共に

健康な時はいつでも自由に
食べていたのにいざこうなると

壁にかけられた額の文字を
何度も読み返し意味を考える

ふと寝入った時に元気な体で
お酒を飲んで騒いでた
なんとなく気がついて
夢だと分かった後も
目を開けない続きを見るために

ふと寝入った時に元気な体で
ギターかき鳴らし歌ってた
なんとなく気がついて
夢だと分かった後も
目を開けないほんの少しでも

いろいろある

あるきっかけでできた恋愛感情と
自然の成り行き of 愛情関係と
あまり違いはないかもしれないけれど
始まりがわからない方が
終わりもわからない

人を好きになるのもいろいろある

くっついて離れて繰り返すうち
そのうち別れてしまうパターンと
慰めたり喧嘩したり繰り返すうち
そのうち離れられなくなるパターンと

どのようになるのかは
自分だけでわかるはずもない

特別な気持ちの恋愛感情と
ずっと一緒にいたい愛情関係と
あまり違いはないかもしれないけれど
一方的なよりもお互いで育む方がいい

人を好きになるのもいろいろある

いろんなこと求めたり与えたりするうち
見返りを期待するパターンと
多くは望まないで思いやるだけで
見返りは求めないパターンと

どのようになるのかは
自分だけでわかるはずもない

敬愛

最後の最後まで筆を置くことなかった
自分の記憶すらまともでなくなっても

信じた道を曲げることなく
腰が曲がっても机に向かって

現実と夢と記憶いろいろと入り混じり
本当になかったことでもそんなことどうでもいい

残せるものと残したいものと
命がある限り知恵を絞り出して

弱くなった後は怒ることも少なく
にこやかに笑って面白いこと言ってた

できることならこの僕もその形は違っても
今からでも遅くはない見習って生きよう

残せるものと残したいものと
命がある限り知恵を絞り出して

最後の最後まであがいていきたい
自分の記憶すらまともでなくなっても